

宮森小の悲劇、考えて

演劇「フクギの雫」



宮森小学校ジェット機墜落事故を描く「フクギの雫」の東京初公演。3日午後、東京都の文京シビックホール・小ホール

東京初上演 変わらぬ現状問い掛け

読ん
て
る
広
がる
NIE

【東京】1
959年に石川

市(現うるま市)の宮森小学校で起きた米軍ジェット機墜落事故を題材にした演劇「フクギの雫」が3日、東京都文京区で上演された。地元の若者らが事故から50年たった2年前に初演したが、東京では2日の和光小学校(世田谷区)と合わせ今回が初上演。制作したのは元高校教師の宜野座映子さん(64)の教え子らが2009年に結成した「ハーフセンチュリー宮森」。うるま市在住の社会人、学生ら20代の若

者たちで、出演者やスタッフ約25人が上京した。舞台は、今も続く被害と重ねて「何のための訓練か」「誰のための基地か」などと問い掛ける。子どもを失った母親が回想する場面などで、客席からすすり泣きが漏れた。保育者を目指す都内の大学4年生、市川正人さん(24)は「ゼミで3月に沖繩に行き、事故について学んだが、劇を見て言葉がない思い。今の子たちに悲劇をどう伝えていくかを考えたい」と語った。

公演は昨年名古屋公演を見た原爆の凶丸木美術館(埼玉県)関係者らの実行委員会が主催。同館の小寺隆幸理事長は「沖繩の思いに本土がどう応えるかを感じてほしい」と語った。